

### いざという時のために 蔵王山ろくで林野火災防ぎょ訓練



4月22日、福岡八宮不忘山地区で、宮城県や仙南地域の自治体や消防団、企業、自衛隊など52機関の1,050人が参加して、大規模な林野火災防ぎょ訓練が実施されました。

訓練では、大規模な林野火災が同地区で発生しているとの想定で、初期消火訓練や救護訓練、南東北3県などの防災ヘリ6機による空中消火訓練など、さまざまな訓練が繰り広げられました。

なお、例年実施している6.12総合防災訓練は、当訓練の実施に代えることになり、今年度は実施しません。

### こわもての「悪役」でハーモニカ 生きがいデイサービスでトークショー



スパッシュランドで生きがいデイサービスを利用している、元気なお年寄り40人を前に、「悪役」俳優として活躍中の山本昌平さんが、4月18日、トークショーを催しました。

山本さんの義理の母も利用しているこの事業。皆さんの健康に自分も一役と、自ら出演を買って出ました。黒のスーツに赤いシャツと、おなじみの悪役姿の山本さん。お年寄りと接した体験談などの後、懐から拳銃ならぬハーモニカを取り出して、童謡など10数曲を熱演し、心に響く音色に盛んな拍手が送られました。

### 家族とともに100歳を迎えました

#### 草野とめさん・太田むめさんに敬老祝金贈呈

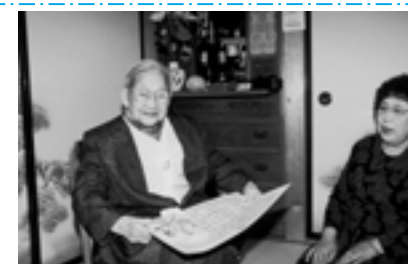
満100歳の誕生日を迎えられた草野とめさん（東大畑・明治36年4月22日生まれ）と太田むめさん（田町・同年4月26日生まれ）のお宅に川井市長がお伺いして敬老祝金100万円を贈り、長寿を祝福しました。



川井市長から贈られた祝詞をしっかりと見入っていた草野とめさん

草野とめさんは、ここ数年寝たきりの状態ですが、家族の献身的な介護と本人のがんばりで100歳を迎えられました。

ご家族の皆さんは、とめさんを心から尊敬し、とめさんもご家族の介護に常に感謝の気持ちを持ち、時には体調を気遣うなど、お互いに思いやり、尊敬し合っているご家庭です。



「おかげ様で100歳になりました。今後もどうぞよろしく願います」とあいさつされた太田むめさん

太田むめさんは、「若い頃は買出しなどで子どもをおんぶしながらいっぱい歩き、体を鍛えたお陰で長生きできました」と先の戦争のころの思い出話をしてくださいました。

家族みんなで仲良くお話ししたりして過ごすのが一番、というむめさん。お化粧が趣味で、常に身だしなみにも気を配られています。

### 環境との調和を目指して 事業所と地域で清掃活動

4月19日、NECトーキンおよびNECインフロンティアに勤務する従業員とその家族、旭町・鷹巣地区の皆さんら約200人が、旭町や齋川土手付近、キューブ周辺の清掃活動を行いました。



地域を住みやすく、気持ちよい環境にと、5年前から春と秋の2回実施しているこの清掃活動。

11回目となる今回も、1時間半あまりの清掃で、空き缶やびん類、紙くずなど、さまざまなごみがトラックいっぱい積み上げられました。

### 春らんまんの季節を楽しみました 武家屋敷通りでお茶やバザー

4月29日から5月5日にかけて、市民有志でつくるボランティアグループ「武家」の皆さんが、武家屋敷かいわいに賑わいをと、隣接した小関家・小見家の敷地内で、「春うらら・武家屋敷通りを歩いてみませんか」と銘打ち、お茶やバザー、フリーマーケットの催しを行いました。

訪れた市民や観光客には、桜茶や抹茶が振る舞われ、手づくりの手芸品や小物類、お菓子や漬物といった地場産品などが即売されました。また、小関家の協力により江戸時代の什器や武具なども展示されました。



### 開校50周年記念事業の成功を願って 白石第二小でバザー開催



白石第二小学校は、白石市制施行と同じ年の昭和29年11月に開校し、来年で創立50周年を迎えます。

何か記念の事業をと、保護者有志が記念事業実行委員会を結成し、地域や卒業生に向けた機運の盛り上げと資金集めを兼ねて、第1弾の行事として、4月19日、同校でバザーが開催されました。

会場には、各家庭から持ち寄った寝具類や洗剤、食器などの日用品や、絵本やぬいぐるみなどのリサイクル品約1,000点がズラリと並び、大勢の保護者や児童で賑わいました。

### 花ふぶきの下で多彩な催し 大網地区でフェスティバル

5月4日、福岡小八宮分校校庭で、「花ふぶきフェスティバル」が開催され、地元の家族連れや帰省客など、約600人の参加者で賑わいました。



美しい自然の中で遊ぶ子どもたちの笑顔を楽しみに、大網地区の有志でつくる友の会が企画したこのイベントは、今年で4回目となりました。

八重桜の花びらが舞い落ちる中、雪中宝探しや、イワナやニジマスをつかみどり、紙ひこうき飛ばしなどが次々に行われ、持ち寄った地元のお米が賞品となるなど、地域の温かさを感じさせるイベントでした。

今年で四十五回を迎えた、全日本こけしコンクールであるが、当初は苦難の道歩んだようである。昭和三十四年に、現在の天皇皇后両陛下の御成婚を記念して開催され、以後、よちよち歩きを始めるが、その頃は、新型こけしが大部分を占めていた。名のある囃子の伝統こけし工人達が、作品を評価されることが自分のプライドに関わると審査を辞退し、全日本という名のカナエの軽重を問われる時代もあった。



### 川井市長の せせらぎトーク

## ヒイラギ(柎)のこけし

この名木を大事にしなさいよ。」と繰り返して話したという。確かに昭和五十四年発行の『白石市の文化財』に内閣総理大臣賞が交付された。審査員にも、日本芸術会員の向井潤吉氏や作家の伊馬春部氏などが委嘱され、翌四十七年第九回には井伏鱒二氏に加わるなど一流の名前が並ぶようになる。当時、観光課に属していた現高橋新太郎助役から聞いたところによると、審査が終わった後で井伏さんを福島まで送ることになり、途中齋川の道祖神社に案内をした。ところが、井伏さんは道祖神よりも、側に立っている柎の木に大変な関心を寄せた。「柎の葉は若木のうちは尖っているが、老木になると丸くなる。」

写真を見て、根回り一メートル七十五高さハメートルという巨木である。ところが、平成九年九月三日、台風でこの柎の木が倒れてしまった。翌日登庁したら、国道を塞いだので、建設省に連絡をして取り片づけてもらったとの報告を聞いた。「あ、あの井伏さんが言っていた柎だ。」と、すぐ現場に飛んだが、建設省から委託された業者が運んでしまった後である。根株を見ると中がすっかりゴロになって腐っている。これでは倒れてもやむを得ないと思っただけ、あの名木を何らかの形で残せないだろうかと一所懸命探したら、隣の古山さんの家で記念のために枝の一部をもらっていた。お頼みしたら、快く譲って頂いたので、すぐ車に載せ新山京さんの家に走った。木の由来を話して、これでこけしを作ってもらいたい。いつまでという期限は切らない。十分に乾燥させて作って欲しい。とお願いをした。

今年のコンクールの前にこけしが出来たという連絡が来た。五年以上の年月を経て木はしっかりと乾き、きれいな木目のこけしである。道祖神社に飾るのが一番いいのだが、ちょっと心配な点がある。エジプトを訪ねた時、当時エジプト大使だった片倉邦雄先生から、御先祖である喜多の墓に供えて欲しいと、アラバスターの花瓶をこつかつた。墓に供えるつもりだったが、盗難の恐れがあるとの意見が出て、歴史探訪ミュージアムに飾ってある。弥治郎こけし工人会の会場で、これは市で頂いた物であるが、こけし村に展示するのが最適だと思っただけで、こけし村に何があったら、満場の拍手である。早速、村長さんに手渡し、できたら由来書を付けて欲しいとお願いをした。

白石の名木は、大平のサカサケヤキ、常林寺のヒガンザクラなど数多いが、かつてそのトップを飾っていたのが、道祖神社のヒイラギである。市民の皆さんもこけし村にお出かけの際は、展示してある道祖神社の柎のこけしを見て頂きたい。